



地域なんでも情報局

令和4年8月16日発行
長崎市社会福祉協議会
長崎市恵美須町4番5号
☎095-828-1281

第44号 特集記事

いつもの食事がから幸せを届ける

長崎市社協
滑石団地支部

令和4年7月11日(月)滑石地区ふれあいセンターで社協滑石団地支部主催のふれあい食事サービスが約2年半ぶりに開催されました。これは、ひとり暮らしの高齢者(65歳以上)を対象に、食事をとおして行う健康管理、生活指導及び隣人とのつながりをつくることを目的に概ね月1回の頻度で開催されています。

令和2年2月頃から、「集まること」「一緒に食事をとること」の感染リスクを避けるため、また市の方針で公共施設での会食を伴う活動が休止となったことから、やむなく食事サービスは休止していました。

休止期間中は再開に向けて支部役員を

当日は季節の野菜や旬の食



はじめ食事ボランティアの方と打ち合わせを行い「試行錯誤だった。」と多良支部長は話されていました。参加者が多く、AとBグループに分かれる同支部は実際に地域の民生委員児童委員に対して、「会食がなくてさみしいわあ」「いつから?」と声を掛けられていたそうです。日頃から食中毒や感染症の予防対策には注力されている食事ボランティアの方から「コロナ禍では手洗い、マスク着用、密を避けるという3原則の徹底と従来以上に念入りな清掃、消毒を行うなど次に活かす反省点も多かった。」と次回に向けた意見が述べられていました。

材を使い、栄養バランスの取れた食事を食事ボランティアがつくり、オカリナ演奏などの催しも今までの形に添って行われました。高齢者の生活状況を定期的に見守れる機会をつくることは地域で暮らす高齢者の健康と安全を守るために必要といえるでしょう。

新型コロナウイルス感染症の対策をしながら、地域のつながりを保ち続けるために、今出来る工夫を皆さんで話し合い、すすめていくことが大切であり、「地域」のみんなを力をあわせて考えていく必要がより一層求められると感じられました。

熊谷 俊和



みんなで取り組もうSDGs

SDGsとは平成27年9月25日に国連総会で採択され、「住み続けられるまちづくりを」等の17の世界的目標からなる持続可能な開発目標のことをいいます。

6月25日(土)に銭座地区コミュニティセンターでSDGsの理念を一人ひとりの日常生活の中に、そして地域みんなで取り組む活動に活かしたいという趣旨のもと「みんなで取り組もうSDGs」を合言葉として開催されました。

SDGs認定機構特任教授の溝田勉氏が講師を務め、地域の方が29名、法人の方が9名の計38名が受講しました。

受講者の皆さんが回答さ



れたアンケート結果を見ると、その中の一つに「地域の中で助け合う。例えば高齢者の方々に対して、普段の会話の中で不自由と思われることを感じとる。そういった小さなことからできるといいなと思います。」とあり、小さなことの一つ一つの積み重ねが大きな目標を成し遂げるための一歩になると感じました。

10月1日(土)に第二回SDGs講座が開催予定です。より具体的にこれからの銭座校区のまちづくりに関して一緒に考えていきたいと思えます。辻 悠生



銭座校区支部

社協ホームページから過去の「地域なんでも情報局」をご覧ください。『長崎市社協 地域なんでも情報局』で「検索」

日常で無理なく見守り活動

伊王島の見守りネットワーク協議会は、伊王島町が長崎市に町村合併（平成17年）

伊王島支部

した際、町民の総意を伝える組織として立ち上がった行政課題検討会（平成20年立ち上げ）の中の部会として位置付けられています。

訪問したりして状況確認を行なっています。地域の高齢者の見守りを行っているため、新しく伊王島へ転居してこられた方々へも必要な時、声を掛けさせて頂いているそうです。

高齢者や地域の中で見守る必要がある住民を町全体で見守ろうということで協議会が立ち上がりました。

今年度は、通常の見守り活動とあわせて、コロナ禍で外出がままならない75歳以上の見守り対象者の方向けに、地域の企業協力のもと買い物ツアーを企画したり、緊急時の連絡カードを作成したりしています。

活動初期は各団体の代表が構成メンバーで、警察や消防なども会議へ参加していましたが、徐々に形態が変化し、現在は、民生委員などのメンバー主体で行われています。

見守り活動にとどまらず、高齢者の楽しみを見つめる活動も企画・立案されています。

主な活動は地域の中で気になる一人暮らしの高齢者や高齢世帯の方などの見守りで、通院など外出の時に声をかけたり、必要な時は

訪問したりして状況確認を行なっています。

田栗 恵



密を避けてお出かけチャンス!!

お買い物ツアー(案)

11:00 集合(伊王島公民館)

11:15 伊王島公民館

11:40 伊王島公民館

12:00 解散



やさしいまち手熊

小江原地域包括支援センターでは、令和元年から「やさしいまち手熊」を指して、手熊小学校3・4

手熊地区

年生の総合的な学習の時間を活用し、福祉をテーマに学びを深めて4年目になります。

こうした危険な場所を第三者に知らせるためには目印がいることも分かりました。そして、教室に戻って「自分に何ができるか」を一人ひとりが考える貴重な学習の時間となりました。

これは、高齢化が進む地域の課題を学校と地域が一緒になって取り組んできました。内容は、高齢者の心と身体の話から始まって、高齢者疑似体験、まち歩き体験、認知症サポーター養成講座、徘徊模擬訓練と1

また、昨年、徘徊模擬訓練に参加した地域のAさんは、ある日、徘徊する人を見かけたとき、ドキドキしながらも勇気を出して声を掛けることができたそうです。この通報のように、民生委員、地域包括支援センター、病院、警察へリレー

今年7月に同校の3・4年生は実際に町を歩いて、日ごろ何気なく歩いている道のりも高齢者の目線で歩くと、歩道の段差や溝が危ないことに気づきました。

されて、未然に事故を防ぐことができた事例がありました。4年目のこの取り組みは、「やさしいまち手熊」に向けて確かに根付いているようです。

写真は今月6月の高齢者疑似体験の様です。

本村 信幸



支部指導者研修会

7月22日(金)に『第34回支部指導者研修会』を開催いたしました。市社協と市社協支部長会の共催事業として、社協支部役員の方

研修会

を対象にした地域福祉に関する学びを深める場として今年1回開催しております。

今年度は「社会福祉協議会が取り組む新たな事業について」をテーマに社協で近年を取り組み始めた事業の紹介を中心として研修を行いました。

前半は相談業務についての紹介で、特に現在コロナ禍で相談件数が急増しており、これまで表面化していることとの少なかった方々の相談が増え、多様な相談に対応するため、複数の相談窓口

を開設しています。実際の事例も交えながら、内容を問わず困っている方からご相談を受けることができる窓口を設置していることをお伝えしました。

後半は生活支援コーディネーター(SC)についての紹介で、地域にお住まいの高齢者のみなさんが、いつまでも元気に活動できるように地域の活動の支援や困りごとを把握し、その解決のための仕組みづくりを行っていくことを目的として活動していることをご報告しました。

今後とも地域活動の支援として、研修会等を開催していきますので、皆様のご参加お待ちしております。

野瀬 輝

野瀬 輝

